

結婚の危機 (下)

アンディ美湖

彼らの目が語っていました。この結婚は長く続かないと。それでも私は、結婚式の司式をしていたのです。確かに複雑な気持ちでした。多くの人がこのような結婚式をするのに反対するでしょう。しかし、彼らは大人です。カウンセリングを拒み、お構いなしに結婚します。私の祈りは、何とか結婚式におけるキリスト教の影響が、これから起こる嵐に、灯台のようであってほしいのです。必ず来る嵐に。

そして問題は、私達は、このようなカップルの今後に何を与えることができるかです。雑誌「Spa!」の今秋の調査によると、離婚した人の3分の1は、結婚1年以内で、80%は3年以内だということです。私達が何を与えるにしても、早急にする必要があります。

なおざりにしたことに直面する

現実には、実際的なものは何も与えられていません。私は沖縄から北海道まで結婚関係の働きをして、何百もの人の相談にのり、何千もの人を教えてきました。私の経験から、少なくとも90%の日本のカップルは、結婚のため8時間の学び・セラピーが必要です。クリスチャン、ノンクリスチャンを問わず90%が。90%とはかなり楽観的にみた数字です。

前回の記事で、ブリーフ（簡潔）セラピーというアプローチをみましたが、たとえブリーフセラピーでも一般に少なくとも8セッションを要するでしょう。私が殆どの教会で与えられる時間は2セッションです。しかし、地域教会が結婚の助けの他のプログラムを組むから大丈夫でしょうか？実は、普通は他にほとんど何もなされていないのが現状です。前回の記事で、葛藤しているカップルに希望を与える必要があることを言いましたが、殆どの教会では何もなく、たとえ希望が与えられても、その次のステップがないのです。——彼らの必要は、なおざりにされているようです。

来る1月、私は厚木のアメリカ海軍のために3日間のカンファレンスを行います。以前に書きましたが、アメリカ軍人のチャプレンは結婚関係の危機的状況で圧倒されています。しかし、厚木基地では、2年ぶりの結婚のイベントです。結婚を庭にたとえてみましょう。夏には毎日水かけ、冬には支え、保護、春と

秋には種まきが必要です。そして、絶えず草取りが欠かせません。庭を 2 年間放っておいたら、その結果はどこから手を付けてよいかわからないジャングルです。同じように、結婚のために定期的なケアをどのようにできるでしょうか？

小グループの力

「自然な教会形成」という研究チームは、50ヶ国以上の22,000の教会を研究し、そこで得た情報から導き出した、成長するため、教会が健康であるための8つの特徴を定義しています。それらは、例えば、「権限委譲するリーダーシップ」、「賜物を中心とする働き」、「霊的感化を受ける礼拝」などです。この8つの特徴全てが等しく重要です。しかし、彼らが特に強調するのは、「もしこの中からどれか一つ、最も重要な原則をあげるなら、疑いなく、小グループの増殖だと答える。」ということです。人々が最も関心を寄せていることに焦点を当てた小グループです。私たちは、人々の関心ごとに焦点をあてた小グループを築いているのでしょうか？結婚ほど大きな関心ごとはあるのでしょうか？

教会はここで問題があるようです。ジョージ・ハンター(Asbury Theological Seminary)の言葉を借りれば、「多くの西洋の教会指導者は現実に目を背けている。彼らはあたかも次の年が1957年であるかのように教会の活動を計画し、実行している。」

そして、これと同じことが日本でも言えるのではないかと思います。多くはいまだ英語が大流行し、英語のクッキング・クラスでさえも素晴らしいアイデアであった1977年のままで止まっているのかもしれませんが。そうです、多くのクリスチャンリーダーは、クリスチャンの結婚が豊かであれば、潜在的なインパクトがどんなに大きいかを見落としているのです。

フォーチュン誌の500社（アメリカのトップ企業500社）のうち78%が、1991～1993年に事業の再構築を行ないました。そこで、私たちは自問します。いったいこの10年間で、もしくは1世代でも、何%の教会が構造の再検討をしたらどうか、と。疑いもなく、日本で私たちは行き詰っているのです。私たちはずいぶん前に停滞期に直面し急速に沈滞してしまったのです。その間、教会の扉の外で人々が飢え渴いているにもかかわらず。

家庭をいやすことに焦点を置いている小グループは、この時代の傷ついた状態と、教会の行き詰まり症候群が一番必要としていることでしょう。

もし、小グループが、神の贖いの力を体験する基本的な場所であるなら、ちょっと時間をとって想像してみましょう。その都市の隅々に福音が届けられるために、1万を超える小グループが伝道チームとしてその都市いっぱい仕えている様子を。地域社会、事務所、工場、学校、病院、政府機関など、あらゆるところに浸透していると。このようなグループが、どこにでもあるわけではないとしても、少なくとも、地域教会の計画の重要項目となるべきです。

もちろん、たくさんの方は、こう反対するでしょう。「家族関係のこの複雑な問題に、資格のあるセラピストが必要だ！」と。しかし、この時代、ポストモダンの精神はそのような時代遅れの提言を笑い、科学よりもっと潜在的なものがあると気づいています。私はラリー・クラブのこの言葉が好きです。「何か良いものは、神の子供一人一人の心であり、それは、すべての悪よりもっと力がある。それはそこにあり、開放されるのを待っている。力が発揮できるために。しかしそれはめったに起こることはない。今こそ‘教会へ行く’ことの根本的な理解を考えると時である。神がキリストにつながる信徒一人一人の内においてくださった力が解き放たれ、人生が変わるということが中心であることを。」教会がいまだに科学に基づいたセラピーを求めているとき、世俗社会は霊的なセラピーを受け入れているのはなんと奇妙な皮肉でしょう。私たちは、専門的なカウンセリングを好みますが、しばしば結局孤立した介入にすぎないことがあります。ヘンリ・ナウエンは私たちをこう叱責します。「指導者の最大の妄想は、砂漠から脱出するのに、そこに行ったことのない人によって導かれると考えることだ。」この科学を超えた土俵で、最も資格のあるカウンセラーは、第一に聖霊に満たされている、そして、次に、自分自身が傷ついたことがあり、最後に、リーダーから権限を委譲されている人です。教会が最も必要としているのは、このような戦士たちです。——実はかなり前から必要でした。

新しい理解を受け入れる

中途半端な気持ちで家庭の必要に応えようとするならば、問題はもっと大きくなってしまいます。これはありきたりの問題ではないのです。フォレスターの法則によれば、「複雑な状況における改善のための努力は、かえって状況を悪くする。あるいは、随分悪化させる。時には悲惨な状況になる。」この問題に十分に組み込んでいくためには、働きにおける新しい理解が必要です。つまり、私たちを古い思考様式や行動様式に縛り付けている制約から自由になることです。

家庭のための小グループを実際に始めることを妨げている、古い教会理解にあ

る3つの制約に私は気がつきました。その中で最もよく見られるのは、「この社会の人々は、グループではそのような透明なまで心を開いて分かち合うことがない。」という神話です。しかし、6年を超える現場から、私はそれと反対のことを体験してきました。人々は親しい関係を渴望しているのです。たとえ、その努力の途中でつまずいたり、しばしば失敗するのですが、彼らはそれを求めています。確かに、多くの人々が肯定的な会話を自由にできないので、小グループでの会話のやり取りはそのための枠組みを必要とします。もしそのような枠組みがないなら、そこでの肯定的な人生の変革もありえないし、かえって、否定的な会話のパターンが深まってしまうかもしれません。ある教会で、結婚セミナーの後、気軽なお茶の時間を持ったときのことです。そこにいた男性たちは次から次へと自分の妻の体重、容姿、性格、料理について否定的コメントを面白おかしく述べ、彼らはみんな、そうすることがユーモアであるといった様子でした。そういうわけで、ファミリー・ライフのホーム・ビルダーズ（クリスチャン・ホーム形成のためのスモール・グループのプログラム）を始めるときにまず伝えるルールは、「あなたの結婚生活について語る時、あなたの配偶者を困惑させるようなことは分かち合わないでください。」ということです。

私たちが前に進めることを妨げているもう一つの制約は、この国においては、教職者中心の働きがその大半を占めているということです。牧師や宣教師たちはこれまで、信徒に権限を委譲することをないがしろにしてきました。教会のもつ古い秩序を維持することによって、私たちはしばしば信徒たちの成長を妨げてきました。これは教会のメンバー一人一人の中にある力とキリストの体に対する私たちのやせ細った見方を示しています。私たちは霊的な覚醒を祈ることが出来ます。しかし、神は恵みの内にそれを保留されるでしょう。なぜなら、そのようにたくさんの人がキリストに導かれることがあっても、その流れをどのように導くのかいまだわからないからです。少なくとも今のような、教職者中心、教職者依存の教会の構造では。ギャロップ調査によると、アメリカの教会のメンバーの40%は人々に到達するミニストリーをすることに関心があるのです。たとえ控えめに想像して、日本においてはこの数字が20%であっても、いや、たとえ10万の人たちが強く、動かされたとしたら、この国は決して同じではないでしょう。リック・ワレンはこう述べています。「全ての教会は、支配のための仕組みを造るか、それとも、成長のための仕組みを造るか、どちらを選ぶか決断しなくてはならない。」¹現在、日本の教会はリーダー不足の危機的な状況にこたえるため、小グループのリーダーを養成する環境を作るべきではないでしょうか？

そして、私たちが苦しめている最後の制約は、私たち自身が、傷ついている人々を一定の型に押し込めてしまうということです。（現実には、私たち全員が傷ついている人々なのです。そして、これらの傷ついている人々のうち、自分たちの痛みを受け入れ、自分の中に統合した人たちこそが、いやしのための最善の器となるのだということを忘れているのです。）ここ数年、サイコセラピーの伝統的な方法は綿密な調査にさらされています。サイコセラピーの弱点は、人々に特定の病理の名前を押し付け、レッテルを貼るのを好みますが、人々はレッテルではなく愛を必要としています。家族問題を扱うプログラムで働いている、‘正規の訓練を受けていない’が、非常に効果的な‘ひとりの女性はこう警告します。「私には、病理学は人々を攻撃するような立場にあるように思えるのです。病理学的に人を扱うことはその人を攻撃することだと思います。私たちは病理学的に人を見ません。しかし、問題を無視することもしません。私たちが前提としていることは、ここに大変な大きさの痛みがあるということであり、私たちはそこに飛び込んで、出来る限りその痛みの一部でも緩和し、少なくとも、痛みを増し加えることなく、痛みに対して健全な敬意を払っていくのだということです。」

私たちの教会は、問題と戦っている人たちが、病気だというレッテルを張られたり、ある状態を持っているということで、権限を与えられないでいる一方、ある人たちは無傷であるという幻想を作り出すことで賞賛される場所となっていないでしょうか。私たちは、すべての人を新しいレベルの正直へと導くことが出来るでしょうか？犠牲者、もしくは生き残った人の立場ではなく、敵に致命傷を与える武器として、彼らに権限を委譲することができないでしょうか？

今日、教会を変えるためにはその物語を変えなければなりません。（新しい理解へ）そして、生活を変えるために、肯定的な行動のための仕組みを作るべきです。（家庭の必要を満たすための小グループ）

嵐はきます。しかし、私たちが神のスピードで動くなら、新しい未来を描く存在になるチャンスはまだあります。ピーター・クリフトは、苦しみに関する画期的な著作の中で、「私たちの社会は、問題に対して何一つ答えを与えない。かえって、それから逃げる1000の方法を与えている。」ⁱⁱと説明します。今こそこの社会に、問題に直面し、乗り越え、真の意味で生きことを始める、1万の場を提供するチャンスなのです。（小グループを始めるために、世界ベストセラীরホームビルダーズシリーズをウェブサイトでご覧ください。www.familylifejapan.org）

(訳:美湖純子)

i Ibid. 378.

ii Peter Kreeft, *Making Sense Out of Suffering* (Ann Arbor, MI: Servant Books, 1986), 12.